

しろとりこう

白鳥港（県管理地方港湾）

白鳥港は香川県の東部、日本一の手袋生産と日本武尊（やまとたけるのみこと）の白鳥伝説を伝える白鳥神社のある町、白鳥町に位置しています。

本港は今から約 400 年前に讃岐領主、生駒親正が白鳥に塩田を開き、その製塩を積出すため、中川河口を利用して建設したのが始まりです。

この塩田は白鳥港新川水門の背後にあり、江戸時代から明治の終わりにかけて、港は塩の積出しで、賑わいました。

また、手袋生産は明治 32 年に同町出身の棚次辰吉氏が大阪で技術を学び、郷里で事業を起こしたことから始まり、以後、大正、昭和を通じて発展を続け、本港背後は日本最大の手袋の産地となり、製品は港を通じて各方面へ出荷されました。

現在では、塩田の廃止、手袋等縫製品の陸送化により、貨物船の利用は減少しましたが、本港周辺海域は水産資源に恵まれ、漁船の利用も多く、また、奇岩脈で有名なランプロファイアーおよび、白砂青松の「白鳥の松原」等、自然も美しいことから、商港としてのみならず、漁船およびレクリエーション港として、歴史や自然と調和した港湾となっております。

